

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:93～95.

チームによる外科フットケアの取り組み

村上閑香、近江佳奈、山下淳子、塩野谷美恵子、河地範子、稲葉雅史、笹嶋唯博

## チームによる外科フットケアの取り組み

9階東ナースステーション ○村上 閑香、近江 佳奈、山下 淳子、塩野谷美恵子、河地 範子  
外科学講座 稲葉 雅史、笹嶋 唯博

当病棟は、糖尿病を合併したASOが入院患者の7割を占め、下肢重症虚血症例の手術は年間約100例と激増している。患者の多くは、持続する疼痛で心身ともに疲弊し、さらに、医師中心の診療により看護師は潰瘍や創部を十分把握していないといった状況があり、看護師が創部を見ずに患者を理解したり日常ケアにあたるには限界があった。そこで、外科系看護師として創傷という側面からも患者理解を深めるため、また、医師と看護師の適正な役割分担を図ったチーム医療を展開するために、医師と看護師によるフットケアチームを立ち上げた。看護師によるフットケアは、術後安定期の断端部開放創や足部潰瘍で、継続した処置が必要な患者が対象である。医師の指示したフットケア処置指示票に基づき、看護師主体で創洗浄や軟膏処置を実施している。また画像デー

タから創傷アセスメントを行い感染兆候や壊死への進展、著しい血流低下がみられた場合は、医師に報告し速やかに対処している。創部の評価と処置内容については、週1回医師と回診し治療効果や方針を検討している。医師とのディスカッションで理解を深めアセスメント能力を養成し、フットケア業務上の問題点などを検討している。看護師主体で外科フットケアを行うことは、創治癒の良否や関心が高まり、創傷アセスメント能力の向上が期待される。患者に対しては、フットケアの時間を共有する中でライフスタイルや価値観、疾患との付き合い方を把握し日常生活における支援の糸口を見出すといった意図的な介入ができる。

## チームによる 外科フットケアの取り組み

旭川医科大学病院外科病棟  
旭川医科大学外科学講座\*  
村上閑香 近江佳奈 山下淳子 塩野谷 美恵子  
河地範子 稲葉雅史\* 笹嶋唯博\*



## 背景

- 下肢末梢動脈閉塞(PAD)に対する手術は年間約100例と激増
- 重症下肢虚血例はその8割を占め、糖尿病合併例が7割を超えている。
- 予防的フットケアの充実をはかる必要がある
- 足部の診察・治療は医師がグループごと実施
- 看護師は潰瘍・創部の状態を十分把握していない

旭川医科大学病院 9東病棟

## フットケアチーム発足の経緯

- 創部を観察せず、患者を理解したり日常ケアに当てるには限界がある
- 外科系看護師として創傷という側面からも、患者理解を深めようという機運が高まった
- 2008年フットケアチームの立ち上げ



入院時



術後退院時

## フットケア対象患者

1. 医師の指示のもと実施する患者
  - 潰瘍・壊死のある患者
  - 術後安定期の足部創で処置が必要な患者
  - 術創の合併症を認め、処置が必要な患者
2. 下肢清潔ケアが自己で行えない患者
3. 創部の自己管理を要し、退院指導が必要な患者

旭川医科大学病院 9東病棟

## フットケアチームメンバーとその役割

医師： 手術創の処置  
術後早期の断端部処置  
デブリードメント処置  
疼痛・炎症の強い創

看護師： 術後安定期(1週間以降)の創断端・  
足部潰瘍の処置(局所洗浄、シャワー浴、軟膏塗布、創部ドレッシングなど)を実施  
持続陰圧吸引療法(2回目以降)  
創の観察、治療経過の把握  
治療経過を画像として保存

旭川医科大学病院 9東病棟

## フットケアの実際



## 回診車



旭川医科大学病院 9東病棟

## フットケアの実際

看護師主体で実施

感染対策



## 医師との評価

- 毎週1回定期的にフットケア担当医とともに創処置を実施
- 創傷アセスメントは、日本褥創学会のデザインを参考としたシートを用い、創傷状況をチーム内で共通評価(創の深さ、浸出液、大きさ、炎症・感染兆候、肉芽形成、壊死組織)
- 次週の処置内容を治癒状況、感染の有無、使用軟膏の適合などを含めて検討

旭川医科大学病院 9東病棟

## 看護師によるフットケアの効果

- タイムリーな鎮痛対処
- 対側足部や創周囲の皮膚トラブルの早期発見・予防
- 創傷という側面からの患者理解
- 家族ケア
- 退院時指導の充実

旭川医科大学病院 9東病棟

## まとめ

- 創治癒への関心が高まり、創傷アセスメント能力が向上する
- フットケア時間を共有し、日常生活における支援の糸口を見出すといった意図的な介入がQOLにも影響する



旭川医科大学病院 9東病棟